



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島司教区 電話099(26)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部



# 教区信徒に大きな恵み

## レオ税所七右衛門が福者の列に

「ペトロ岐部と一八七殉教者」列福式典が十一月二十四日(月)正午から長崎市の県営野球場「ビッグNスタジアム」であり、全国から集まった三万人の信者が見守る中、十七世紀前半、神の愛を証しするために命をささげた百八十八人が福者の列に加えられた。そしてその中には信仰を棄てなかったため、受洗後わずか三カ月余りで斬首刑に処せられた薩摩の殉教者・レオ税所七右衛門の名前も刻まれた。

### ペトロ岐部と一八七殉教者列福

教皇ヨハネ・パウロ二世が来日(一九八一年)の際、日本を殉教者の国と表し、その顕彰を大事にするよう命じたのを機に、翌年、日本カトリック司教協議会が

「福運動開始」から二十六年、これまでの列聖・列福とは違う日本の教会主導での列福が実現した。キリシタン時代の殉教者は、氏名や殉教の場所、日時がはっきりしている者



3万人が集い荘厳に行われた列福式

だけでも五千五百人にも上り、はっきりしない者を加えると二万人はいると言われる。それらを代表して一六〇三年から一六三七年に殉教した者のうち一八八人が福者の列に加わり、薩摩の殉教者レオ税所七右衛門

を奉納した。また共同祈願では長年、教区を代表し「殉教者」を続けてレオ七右衛門の偉業を称え続けてきた川内教会から石田幹雄さんが「レオのように大切なものを選び取る勇氣と喜びをもってキ

## 教区に新しい流れを確認

### 司祭団、教区評議会の成果を高く評価

十月に開催された教区評議会についての評価と反省が、十一月十七日(月)、十八日(火)に相次いで開かれた司祭評議会、教区司祭会、定例司祭集会(コンベンツス)で話し合われた。「みことばに触れ、食

を目的としたものだった。そのために会議の意図や目的がはっきりしないため、会議の進め方や成果を不安視する向きも確かにあった。しかし、鹿児島本土と奄美大島の参加者、百八十八人は概ね高い評価をした。教区評議会後、約一カ月を経てなされた今回の司祭会議では司祭たちが異口同音に「評議会後、教会の空気が変化しました」ことを報告した。例えば、

ミサ後の茶話会での会話が弾むとか、信者の話題が信仰のことや聖書のことに終始するなどである。ある司祭は「これがこれまでなかった新しい時代の教会のあるべき姿かもしれない」と話した。司祭評議会ではこの新しい流れの根底に「みことばに触れる...」、つまり神のことば(聖書)があることを確認する必要もあるとの指摘もなされた。それは今回の評議会の成果を打ち上げ花火のような一過性のものに終わらせたくないという司祭団の強い希望の表れでもある。

## 新風

パウロがキリストに出会ったのはダマスコへの途上でした(使徒言行録9章1-9節)。ダマスコにはナザレのイエスをキリスト(救い主)であると信じて生きている人びとが居ました。パウロは彼らを探らえてユダヤ教に引きもどすつもりでした。

パウロが回心する前にキリストを信じている人々の集団、つまり教会は存在していたのだと、教皇様は強調しています。(教皇ベネディクト16世「使徒教会の起源」ペトロ文庫二〇三ページ)。

## 聖パウロ年に寄せて(その4)

の呼びかけによってキリストと教会は一つのものであることが分かったのです。このことから、後にパウロは教会のことをキリストのからだ(聖体)によって形成される「キ

行程は、まず、信者に誘われて、教会を知り、交わり、それからキリストを知って、洗礼を望むようになり、洗礼を受けるというふうに進んでいきます。もちろん教会と長年交わりながら、

受洗の決心がつかない人もたくさんいます。その人たちはまだキリストと出会っていないからだと云えます。パウロの場合のように、教会に未信者の人が多く訪れるクリスマスが近づきました。世間ではクリスマス商戦が盛んです。クリスマス商戦の中ではおそらく人々はキリストに出会うことはないと思います。だとしたら、この時期、教会を訪ねる未信者の人に「キリストのからだ」としての教会を体感してもらおうように信者の皆さんは心がけて見てはいかがでしょうか。(H・N)

## YET

十月の守護の天使の記念日に息子・寛大が一歳の誕生日を迎えた。生まれてしばらくは異常もあつたからよく育ってくれたものだと感謝している。そして誕生から一年と一カ月して、わずか数歩だが彼は自分の足で歩み始めた。嬉しかった。そしてこんなことが喜びになる自分だなんて思いもしなかった。今では、子供に対して「愛」というより「恋」しているという方がピタリとくる気がする▼「親バカ」などという言葉がある。子供に恵まれるまでは、もともと思いを巡らす作業を不得手にしていたから、そのバカ者どもの気持ちを分かんずりにいた。だから、自分の親に対して「親の心子知らず」のまま、五十年余りを過ごしてきたのだと思う。今、ようやく親の心はまだ、少しだけ思いを巡らせるようになった▼ある日、息子が鼻水を流し、咳を始めた。なぜだか目頭が熱くなった。家内はそれを見て、苦笑い。「親バカ」ならぬ「バカ親」と笑った。確かにそう、でもその感情を抑えられなかった。そしてふと思つた。この気持ちは一人の子供へのもの。これが二人の、そして三人の...と育っていったら、その思いはどうなっていくのだろうと。そんな馬鹿なことを考えたら、こんなに多くの人間を子供としている神の深い愛について考えることが、バカらしく思えてきた。

# 楽しい交わりの場 高齢者の集い「ゆらいあい」

谷山教会 仮屋 敦子

原則第二・第四土曜日にわたしたち「ゆらいあい」のメンバーが鹿児島市内各地から喜々として集まります。始まりは司教様(時に代わりの神父様)の心のこもったミサです。少々理解力の衰え始めている私たちにも理解できるように努力されている司教様の説教に皆さんうなずきながら聞いておられるようです。

その後は会食、リクリエーションと続くのですが、十月二十五日の一コマです。

聖母寮の二人のシスターも加わっていました。チリ出身のヒメナさんとポリビア出身のベアトリスさんが伝統的な民族衣装に着替えてのダンスを披露、またカードを使ったクイズなどで爆笑ありの楽しいひとときでした。皆さん、ポリビアの花「コビーウェイ」の造花を胸に付けてもらって満足そうな顔でした。遠い南米からお出でくださったベアトリスさんとヒメナさんの上に神様の祝福がありますように祈りました。

皆さん、ゆらいあい



南米からの二人と楽しく躍りました

いにいらして見てくださ  
い。  
そして私たちを支えてく  
ださるボランティアの皆さんに感謝いたします。

## 学びという恵みの時に思う

### 名瀬聖心教会「キリスト教基礎講座」

皆様方の教会でも色々な講座が設けられていて、参加されていることと思います。私たちの名瀬聖心教会でも主任司祭(小隈憲士神父)が、毎月「キリスト教基礎講座」を設けております。大変分かりやすく簡潔にまとめられていて、私としては楽しみにしている講座で、参加するといふより神父様の知識をいただきに行っているような次第です。

- ①列福式の現代的意義(なぜ、今、約四百年前の殉教者が列福されるのか)
- ②なぜ、迫害は起きたのか
- ③キリシタン時代の信徒たちの生き方(信徒の組織はどのようなものであったか)
- ④殉教者の生き方から私たちが学ぶことは(米沢の殉教者ルイス甘粕右衛門)
- ⑤殉教者から私たちが学ぶことは(薩摩の殉教者レオ税所七右衛門)

か(日本二十六聖人殉教者のケースから考えてみる) 現代は「信徒の時代」と言われます。一八八殉教者の大半は、信徒であり、司祭がいらない教会を生き抜いた人々です。今回列福される殉教者は、教会とは何かという問いに大きな示唆を与えてくれます。米沢の殉教者ルイス甘粕右衛門は、司祭不在のときに、教会の教えを堂々と伝えた方でした。有馬や京都の殉教者は、現代に生きる私たちに家庭とは何か、信仰をもつて家庭生活を生きていくとは何かを、確かに伝えてくれています。殉教者の信仰生活を深く知り、感銘を受け、自分の信仰生活を今一度振り返り、見直す機会となり、意義深い講座でした。また、私たちは教会のあり方を真剣に考える時がきていると言えましょう。

私たち日本人の信仰者の祖先が流した血が隅の親石となつて今でも働かれています。私たちは生かされているのだと気づかされ、まさにイエスキリストの受難、死、復活を通してキリストと一致した生活を送っていた殉教者の様子を学びたいことに感謝です。

十月からのキリスト教基礎講座は「聖パウロの年」に因んでの講座です。皆さんもご存知の通り、皆さんは今年六月二十八日から来月六月二十九日までを「パウロ年」とされることを公式に宣言されました。聖パウロは、劇的な回心で知られていますが、生涯続いた回心のみ業の証し人でもあり、常にへりくだりの心をもつ聖パウロでした。自分のことを「使徒中の最も

教区の福祉のために 待降節は  
**カリタス鹿児島献金**  
郵便振替 02030-2-8359  
カトリック鹿児島司教区

## 司教執務室便り 一隅を照らす

先月六日から八日までの二泊三日、九州カトリック学校宗教担当教師研修会に同行した。九州各地生きから二十人ほどの先生たちが参集した。驚いたのは、名の通ったカトリック校がすでに修道会の手を離れ民間人の運営下に入っていることだった。信者の先生も四人しかいないということだったが、それでも、カトリックの理念に基づいた宗教のクラスは保たれているという。特に印象に残ったのは、学校が進学に力を入れるあまり、自ずと受験に無関係な宗教に低い評価を下しているにもかかわらず、宗教担当教師としての強い自覚と情熱を持つて奮闘している姿だった。

これまで、当たり前のようにはかかっていたカトリック校での宗教だ

たが、先生たちと分かち合うにつれ、カトリック校をカトリック校たらしめているのは宗教のクラスなんだと納得した。同時に、孤軍奮闘する宗教担当の先生たちがこの上なく尊厳存在に思えたのだ。そして、思わずエールを送った。

ひるがえって、各地に散在する小教区を思ったとき、また信者一人ひとりの存在に思いを馳せたとき、同じような感慨にいたったのは脈絡のないことではなかった。

たしかに、神なき文化の只中であつて教会の存在感はそれほど大きくない。ましてや信者一人ひとりが非信仰的世間に埋没しそうな危惧すら抱いてしまう。しかし、各教会や信者一人ひとりはそんな世間に対して光となつて道を照らすよう

にと派遣されていることを忘れてはなるまい。  
自分の小ささや弱さを思うとき思わず後ずさりしたくなることは多いが、クリスマスで祝うのが幼子であることを思うとき慰められる。それ以上に、「自分の弱さを祝いなさい」との呼びかけすら聞こえてくるようだ。きつとパウロも同じメッセージを受けたに違いない。「大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう」(2コリント12・9)。弱いままで世間の一隅を照らしながら、神が下さったこの世を底辺で支える使命を受けたことをあの先生たちと同じ熱さで自覚できたらと思つた。幼子からの光がみなの上に届くように祈りながら。



**+KABAYAN SEKSIYON+**  
"Kalagayan ng ating Pananampalataya"  
Kilala ang Pilipinas sa pagiging kaisa-isang Kristiyanong bansa sa Asya. Ang Pananampalatayang Kristiyanong isa sa mga ipinagkakaibang katangian ng ating bayan. Ngunit karaniwan na ngayon ang maring ang pag-amin ng mga Pilipinong Katoliko na kakaunti ang kanilang nalalaman tungkol sa kanilang Pananampalatayang Kristiyanong Marami ang umaamin na ipinagwalang-bahala nila ang kanilang Pananampalatayang Kristiyanong. Nagiging bahagi ito ng kanilang buhay sa pamamagitan ng mga seremonyang panrelihiyon na kaugnay sa mga pamilyang pagdiriwang gaya ng mga binyag, mga kasal, mga libing at mga pagbabasbas ng ta hanan. Ito ay isang pananampalatayang tradisyonal na kilos sa pagpapakabanal at kung minsan, ng mga pama hiing nangalang sa ating panlipunan, relihiyoso, at kultural na kapaligiran. Mapanganib ang ganitong pananampalataya sapagkat bukas sa panghihiikayat ng iba't ibang sektang relihiyoso o nabulok sa pamamagitan ng mga pang-aakit ng makamundong sekularismo. Inilalarawan ng ang ganitong kalagayan: Para sa karamihan ng ating mga kababayan ngayon, nakatuon ang pananampalataya sa pagsasagawa ng mga ritwal na kabanalalang pambayan. Hindi sa Salita ng Diyos, hindi sa mga aral-pananampalataya, ni sa mga pagsambang sacramental(maliban sa binyag at kasal). Hindi sa pamayanan. Hindi sa pagtatayo ng ating daigdig sa pagiging kalarawan ng kaharian. At sinasabi nating ito'y dahil sa di-na kikibahagi sa Simbahan, ang higit na nakararami sa ating mga kababayan, ay lubhang salat sa kaalaman at pagkahubog sa pananampalataya. Kadalasan, tinatawag itong "Katutubong Katolisismo". Ngayon, maraming Pilipino ang naghahangad ng isang higit na ganap na pananampalatayang Katoliko at buhay-panalangin. Ngunit laganap rin ang mga asal at kalakarang nagdulot ng paghahati-hati. May mga taong nangangaral ng aral-Kristiyanong paraang pundamentalista at hindi binibigyang-pansin ang mas malawak na hinihingi ng Kristiyanong pagmamahal at paglilingkod. Labis na diin naman ang ibinibigay ng iba sa pangakong ideolohikal para sa "katarungan at sa mahihirap" kaya halos wala nang pagpapahalaga sa panalangin at pagsamba. panghuli, ang pananampalataya pa rin ng ilan ay may tatak ng "makasariling kabanalar" na madalas kaalinsabay ng "bahala na" o malabis na pagpapaubaya ng sa rili sa tadhana. Nagbibigay ang kalabisan o kamaliang ito ng isang huwad na larawan ng tunay na Pananampalatayang Katoliko. Ipinakikita rin nito kung gaano kahalagang maunawaan ang kahulugan ng Pananampalatayang Katoliko, at kung paano ito dapat kumilos sa ating pang-araw-araw na buhay.

# レオ七右衛門顕彰碑除幕

## カトリック川内教会敷地内

十一月十六日(日)川内教会で「薩摩の殉教者レオ七右衛門顕彰碑」の除幕式があった。

この顕彰碑は、レオ七右衛門が福者の列に加えられたことになったのを記念して建立されたもので、昨年



司教と北薩地区教会の信徒によって除幕

その施工には高木石材株式会社(熊本)が当たった。高さ二メートルの顕彰碑には岡山県産の桜御影石が使用され、似顔絵(聖ザベリ才宣教会のマウロ・モラレッティ神父作)のはめ込みには南アフリカ産の天然御影石(ベルファール会)が担当し、

秋の司祭評議会で設置が決められた「レオ税所七右衛門顕彰会」と「顕彰碑準備委員会」が中心となって、列福式前の完成を目指してきた。

デザインはJ・レヒナ神父(大口教会・レデンプトール会)が担当し、

午後二時からささげられたミサで説教した郡山司教は、レオ七右衛門をはじめとする殉教者たちが死に臨んでもその境遇に不平不満をもらさなかったことを例にあげて、「新しい福者の誕生を機に、互

スト)を用いた。

午後二時からささげられたミサで説教した郡山司教は、レオ七右衛門をはじめとする殉教者たちが死に臨んでもその境遇に不平不満をもらさなかったことを例にあげて、「新しい福者の誕生を機に、互

いに非難などするのはやめて神の恵みを探す旅に出よう。福音を告げるべき地の果ては私たち個人の心の中にある。個人個人が自分の中の信仰を生きていない部分へ出かけていこう」とメッセージを送った。

ミサには各地から三百人近い信者が集まったほか、その後の除幕式には、信者だけでなく薩摩川内市市議会議長や川内歴史資料館の関係者なども駆けつけ喜びを共にした。除幕の後は、互

### これも一つの宣教!

#### 信徒が「おはら祭り」に初参加

前夜祭と祭り本番合わせて二百四十五連、二万四千人が鹿児島市の中心街で踊った「おはら祭り」(十一月二日、三日)に、初めて「カトリック鹿児島司教区」の名前が連なった。教区を代表して踊りに

挑戦したのは、山口信好神父(ザビエル教会助任)を団長にした鹿児島市内の教会の信徒と玉里善き牧者幼稚園の関係者らの百二十人あまり。出番となった前夜祭は生憎の雨模様となったが、「ザビエルの熱き想いを」と刻んだハッピー姿の信者たちが「カトリック教会ここにあり」とばかりに、午後七時から終了の午後九時までの約二時間、精一杯

山頭信子修道女(長崎純心聖母会)の歌詞に橋本信さんと賀戸泰彦さんが曲をつけた「レオを讃える歌」二曲も披露された。物悲しくそれでいて力強さのある二つの曲は、今後、信者達に愛されるに違いない。尚、式典の最後に挨拶した郡山司教は、「今日の喜びは三十数年にわたって殉教祭を続けてきた川内教会の力の結晶」と感謝の言葉で結んだ。

員会で出された「ハッピーを揃えてザビエルを市民にアピールしよう」との意向が「せっかく揃えたのなら他の場(おはら祭)でもアピールを」と発展したもの。参加については信徒の中で賛否両論あったというが、有志たちは「宣教への第一歩となるかも」と思い切った。そして教会行事への協力だけの時には起こらない不協和音を乗り越えて敢えて踊り終えた一行は、「できることなら来年もまた」と誓い合って家路に就いた。

十一月二日、この日は「カトリック鹿児島司教区」の名が、市内の繁華街で一番長く宣伝された記念すべき日となった。

は、あろうことか感謝の意を表すのもそこそこに車に乗り込んでしまったとか。ミサ直前に「少し寂しかった」とお年寄りに告白された。司教は猛省。「照れ臭さから、私は迎える側の気持ちも忘れていた。霊的父として振舞わなくてはいけなかった。徳之島の皆さん、ごめんなさい」と反省しきりだった。

### 文芸

純心学園 川上 和  
神からの「恵みの風を帆をはって」あかしの航海天を目指して  
鴨池教会 前田儀子  
木犀のしきりに匂ふ縁先に「赤光」を  
読む至福の時か  
聖書の解説になほ物足りず自らの予兆的解釈をなせるパスカル  
純心学園 岡 俊郎  
生きるとは命働く我が体今日もやる気で捧げ尽さん  
命こそ天の教えと言ひ聞かせ今日も味わう親子の道を  
鹿児島 春山マリ子  
優しさも温もりさえも消えそふ人は

心を痛めながらに  
俳句  
純心学園 川上 和  
街を行くおはら踊りの赤だすき  
純心学園 山頭信子  
バス停にロザリオ祈る老婦人  
椿の実あてもなく拾う籠の中  
鹿児島 徳永ノブ子  
冬近し静もる中でミサを待ち  
コスモスの触れ合い咲きし主の御業  
鹿児島 春山マリ子  
クリスマスイルミネーション輝やけり  
鹿児島 春山マリ子  
レオ税所共に祈りて秋深し  
国分 政 ノブ子

### ごめんなさい徳之島の皆さん 平土野巡礼参加の郡山司教

十一月三日(月)は徳之島で、「パウロ年」に推奨されているパウロにささげられていた巡礼会への巡礼があり、郡山司教の姿もその中にあつた。

徒歩巡礼組の一行は午前七時に母間教会を出発、約二時間かけて目的の平土野教会へと辿り着きミサをささげた。

司教が徳之島入りしたのは前日の二日、そこで待ち受けていたのは予想していなかった多くの信者たちの出迎えと歓迎のための横断幕。「まるで有名アスリートにでもなったみたいだった」とその時の心境を語る司教

### 鹿児島市中 中高生が合同でクリスマスを

十一月二十三日(火)「中高生クリスマス準備会」が開かれる。この企画は、玉里教会中高生会スタッフが子どもたちの「他の教会のみんなとも交流したい」との要望にこたえて、鹿児島市内教会に提案し企画されたもの。教会学校関係者だけでなく、青年たちも「僕らを育ててくれたのは教会

学校を手伝っていたお兄さん、お姉さんたち。この企画に協力したい」とスタッフに加わった。会の名前は、意義あるクリスマスを迎えるためのものとするために敢えて「準備会」とした。この新たな試みの会は、十二月二十三日(火)午前十一時から教区本部で開かれる。

### 結城了悟神父帰天

「鹿児島島のクリシタン」(一九七五年)や「薩摩の殉教者 レオ七右衛門」(一九八五年)の著者で、日本二十六聖人記念館の館長を四十年余り務めたイエズス会の結城了悟神父が、十一月十七日午後八時三十七分、悪性リンパ腫のため長崎の病院で帰天した。八十六歳だった。

### 12月

#### 今月の暦

- 3日(水) 聖フランシスコ・ザビエル司祭
- ▼中野裕明神父霊名
- ▼小川靖忠神父叙階記念日(一九七二年)
- 7日(日) 待降節第二主日
- ▼瀬留教会献堂百周年記念祭
- ▼ヴィンセント・マン神父命日(二〇〇六年)
- ▼宣教地司祭育成の日(献金)
- 日本にはこれまで海外から多くの宣教師が来て、キリスト教の信仰をもたらしてくれました。現在の信徒数に対して司祭の数は確かに多いでしょう。でも、キリストを知らない人の数を考えると、もっともっと司祭が必要です。(宣教師を含めても、約八万人に一人の割合です)。
- 「宣教地司祭育成の日」は、日本だけでなく世界中の宣教地において司祭の育成が大切なことに気づき、そのために祈り、献金をささげるよう呼びかけます。この日の献金はローマ教皇庁に集められ、全世界の宣教地の司祭育成のために援助金として送られます。
- 8日(月) 無原罪の聖マリア
- 14日(日) 待降節第三主日
- ▼鹿児島市民クリスマス・ザビエル教会・14時
- 19日(土) 有馬信茂神父命日(二〇〇七年)
- 20日(日) 待降節第四主日
- ▼大野和夫神父叙階記念日(一九六一年)
- 23日(火) 中高生クリスマス準備会・教区本部・11時
- 25日(木) 主の降誕
- 26日(金) 聖ステファノ殉教者
- 27日(土) 聖ヨハネ使徒福音記者(寝占教之神父、田邊徹神父、J・レヒナ神父、末吉卓也神父、山口好信神父、ダウン神父霊名)
- 28日(日) 聖家族



# 信仰と漢字

イエズス会司祭 岡 俊郎

「信仰生活」この字面をただ心静かに見ていますと、漢字の形からその中身、即ち生き様が心深く味わえそうです。

人は「人偏」に「言」です。人はその生き様で自分の中身をしっかりと味わえるのでしよう。天からの教え・叫びである命の働き、しかも体を通しての働きこそ、私という人間の生き様ですから。

言は口の中から出てきた心の働きが、言の葉として人々の目・耳を通して、その心に染み込んで行く真実なのでしよう。もともと脳みそが「嫌だ」と反応したら心に染み込むのを妨げ追い出すこととなります。現実には体での生き様

です。命の働きとしての言葉は、口の中の働きと言の葉としての外への働きかけは同じです。「本当」だと生き様の真実であることを言い表します。心の中と外に出てきた言の葉が同じでなければ嘘を言ったこととなります。信ずるとは「生き様(自分)が本当です」と自分に、他人にはっきり言えることではないでしょうか。救い主を信ずるとは、

真実を求め続けて、その生涯・生き様を命の働きとして味わい続ける、即ち救われた人間として日々を過ごす。天からの教え・叫びである命に目覚める、更にいつも自覚できたら、信仰は生き活きと毎日を元氣いっぱい過ごせることだと自分

に言い聞かせています。仰は「首を挙げて高い所を見る人」と分かった時、命の源を青い天に求めるのは当たり前なのだと思ひに言い聞かせました。青(せい)はまごころの円に繋がっているのだから。地上の生活に生きる意義を探しても欲に溺れやすい人間なのです。

信仰こそ本当の生きる力を湧き起こす働きであり、生きることを本物にするのでしよう。本当に生きるとは、命の働きが永遠の命の働きへと成長していく一日なのです。

生は草木が発芽・成長し双葉を出した姿です。その姿を心の中にじっくり味わうと、命の働きがミサにおいて永遠の命である神の親心を頂きます。ご馳走さまと心を込めて、よく噛み味わうと自然と一つひとつ有り難うございますと心か

ら申し上げることができません。本物の祈りが生き返ってくるのでしよう。頂きは頭の天辺です。脳みその働きを超えた命の働きの世界に心を開くと、すべての出来事に「ご馳走さま」と申し上げるやうな気がしての毎日になります。信仰の恵みの中心であり、すべてとなる生き様を味わう。命の働きを味わってこそ本当に生きるようになるので

## おはら祭に参加して

### 神様と共に歩く

ザビエル教会 小郷 裕子

第五十七回おはら祭の「夜まつり」(十一月二日)に鹿児島市内の六つの教会の信者百二十四人が、百二連(九千人)の中の一連として初めて参加しました。ザビエル教会壮年会会長・小郷を先頭に六つの教会の

「信仰生活」と言うのでしよう。活は三水に舌で命の味わいになります。命の世界は助け合いと救い合いだけです。欲のように損得優劣をもちたらし代わりになる気だけの生活となります。天から授かった命の働き(「頂きます」としての自分)は自ら(「体の生き様」)に分ける(「尽くす」とおのずから分かる(「悟る」)人

間として育ち救いをまつとうします。有り難うと心から言える人生は永遠の命の働きを味わい始めています。本当に生き活きと生涯をまつとうするでしよう。信仰生活のすばらしさを一日一日と一人でも多くの方々と一緒に味わえますように。

合掌 感謝

の信者百人が続きました。その中には一年前の八月、病に倒れ生死をさまつた奇跡的に一命をとりとめた浩司君(三十五歳)の姿がありました。彼は、重い後遺症で不自由な体にもかかわらず彼の叔父さんと手をつないで一緒に歩いていました。二人の姿に神様が寄り添って歩いておられるようでした。また、三十四歳の佳子さんは、生まれつき不自由な体であるにもかかわらず、両親に支えられて参加してくれました。彼女は休憩のたびに父親が広げた折りたたみイスに座り、体をいたわりながら歩いていました。自分から参加したいと言われた佳子さんの前向きな姿と両親の愛情に感動しました。玉里善き牧者幼稚園の園児達の「よいやき、よいやき」の楽しくかわいい声も夜空に響いていました。

私はこの経験を通して、列福のために毎週祈っている一八八殉教者を思いました。そして、一つのことを知らされました。それは、私には今、血を流す殉教は求められないかもしれない。また、たとえ求められたとしても今はまだその準備が出来ていない。しかし、神様に与えられた場所でイエス様を愛するために自分の思いに死ぬという小さな死に忠実であれば、いつか訪れる大きな死も神様の御旨にかなって成し遂げることが出来るのではないかと、と。

## わたしの「それでも」体験

大柵教会 竹中 智子

頼まれ事がありました。今は忙しいし小さな事なので後にして欲しいと思いましたが、(イエス様あなたを愛するために)を思い出して、その頼まれ事をしました。自分の計画に逆らうようで一瞬、違和感を感じましたが、すぐに心は平和が訪れました。また、ある時

愛するために死ぬとしたら、まさに今なのだ」と。そして、自分の思いに死ぬことができるよう祈りながら批難する相手のために祈り、反論せずに黙って状況を受け入れました。その後、家族の一人は行いをやり直してくれて、私たちの間に再び平和が訪れました。



人ひとり信仰の証し人となったことは沿道の観客や他の踊り連の人々の印象に残ったのではないかと思います。「参加してとても良かった」という皆さんの声が聞かれ、神様に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、この証しのリレーが来年につながっていく事を祈り、願っています。

**カトリック新聞**

1部本体価格150円(税・送料別)  
購読料金(前納、税・送料込)  
半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします

カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週届きます。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

〒135-8585 東京都江東区豊見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社  
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com

**レオ税所七右衛門頭彰碑 建設費募金のお願い**

鹿児島教区では薩摩の殉教者レオ七右衛門の信仰の証を讃え、それを後世に伝えるために頭彰碑を建立しました。そのための建設費をお助けください。目標額は400万円です。

**募金先**

①郵便振替：口座番号 08030-2-8359  
加入者：カトリック鹿児島司教区  
②普通預金：鹿児島銀行 とそ出張所(普) 12500 宗教法人カトリック鹿児島司教区 代表役員 郡山健次郎